

駅伝大会開催

悔しさ胸に 冬を越えて



▲約10キロメートルを走る第1走者の藤園君(ゼッケン16番)

大会には本校陸上部から藤園涼太君(2-2・男子第1区)、川崎新也君(1-6・男子第2区)、中居樹哉君(2-2・男子第3区)、畠中陽平君(2-1・男子第4区)、奥村究君(1-5・男子第5区)、土屋祈和人君(2-4・男子第6区)、林和希君(2-2・男子第7区)の男子7人と橋本萌衣さん(2-8・女子第1区)、種村涼花さん(2-8・女子第2区)、西嶋凜さん(1-2・女子第3区)、伊藤亜友加さん(2-5・女子第4区)、山下恵美さん(2-1・女子第5区)の女子5人が出場した。上位6位までが近畿大会への出場権を得られるなか、

11月4日に滋賀県希望が丘文化公園で男子第69回・女子第36回滋賀県高等学校駅伝競技大会が行われ、本校陸上部から男女それぞれ1チームずつが参加した。

速報新聞

キマグレ

発行所

彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号



▲西嶋さん(左)は伊藤さんにタスキをつないだ。

本校の結果は男子が8位、女子が7位というもので、惜しくも近畿大会進出を逃すという結果となった。
男子第4区走者の畠中君は「序盤で思うような順位につけず近畿出場は難しいかなと思ったが、後半になり順位が上がるにつれていけるかと思ひ始めた。しかしいけるかと思つた反面いけなかったときのショックは大きかった」と悔しさをにじませた。今後の練習に向けては「次の大会が春なのでこれから地味な練習が続くが、地道に努力して結果を出せるようにしたい」と話した。
女子第1区走者の橋本さんは「全員があともう少しの差を埋めることができず、気持ちで負けてしまった」と大会を振り返り、春の大会に向けて「次はちゃんと雪辱を果たしたい。最後の大会なので自分たちの納得いくようにこれから精進する」と意気込んだ。女子第3区走者の西嶋さん



▲惜しくも8位でのゴールとなった林君

は自身がメンバーで唯一の1年生であつたそうで「少しプレッシャーもあつて緊張したけれど、今まで先輩と一緒にずっと頑張ってきたことを思い出して頑張ることができた」と笑顔を見せた。そして「春にこの駅伝での悔しい思いを挽回できるよう、毎日コツコツと頑張っていきたい」と話した。
顧問の森野邦彦先生は男子の結果について「タイムは去年より下がつたが今できることを十分に発揮できた」と、女子の結果について「7位という順位は悔しいと思うが、タイムは去年より2分30秒以上縮まっている」と微笑まれた。加えて部員たちに向けて「3年生抜きでよく頑張った。いつまでも悔しいと思つていてもしょうがないが『今度は負けない』という気持ちを持ち続けてほしい。これからは勉強と陸上の二本立てで頑張つてほしい」とエールを送られた。